

IV 平成23年度知床世界自然遺産地域の利用状況【案】

1. 知床世界自然遺産地域におけるレクリエーション利用の状況

遺産地域の観光レクリエーション利用を概観すると、2011年の観光客数(入り込み客数)が、遺産地域全体で約170万人であった。地域別に見ると、斜里町には118万3千人(前年比97%、ピーク時の76%)が訪れた。そのうち宿泊者数は42万人であり、ピーク時の70%に減少している。また羅臼町には50万5千人(前年比88%)が訪れ、2010年に比較していずれも減少したが、これは遺産登録後のピーク時(斜里町は2005年の155万6千人、羅臼町は2006年の75万9千人)以降続いている減少傾向である。

地域別に見ると(図〇〇参照)、斜里町では全体としての観光客の減少もわずかであり、東日本大震災による観光客の減少や福島原発事故による外国人観光客の減少の影響は見られなかった。

斜里町内の地区別では、利用の中心でなる五湖園地の利用者が、36万2千人で昨年度に比較して15%減少した。特に、知床五湖の地上部歩道利用者が昨年の30%に減少した。これは利用調整地区制度の導入により地上部歩道がガイド付きツアーや事前レクチャーなどを必要とするようになったことが要因と考えられる¹。また、岩尾別登山口および羅臼温泉登山口の入山者数は昨年と比較してわずかに減少しているが、縦走利用者は昨年の30%の増加となっている。これは、平成23年度より道路特例使用制度(6月25日から8月25日まで)が試行され、6年ぶりに硫黄山登山口の登山者利用が可能になったことが要因であると考えられる。カムイワッカの滝方面のシャトルバスは昨年比61%と大きく減少し、ピークの2005年に比較すると15%に落ち込んでいる。また五湖園地へのシャトルバスアクセスは1万人で、前年比60%に減少した。

一方、ウトロ海域の観光船利用数は18万7千人と昨年比で11%減少した。同海域のシーカヤックは前年と変わらない利用者数であった。

羅臼町の観光客数は2010年比で約10%減少したが、羅臼観光船の利用が1万3千人で117%の増加、羅臼ビジターセンターが3万1千人であった。さらに、ルサフィールドハウスが7千人で、過去2-3年は安定した入場者数である。また陸路からの知床岬方面のアクセス数は13%増加した。さらに夏期の10日間の調査だが、知床岬への陸路・海路含めたアクセスは1日平均4人で、2004年以降ほぼ連続して減少している。また羅臼湖登山道の利用者も2千6百人で2006年以降減少が続いている(2006年比36%)。

以上のように、全体としては観光客数が減少しているが、羅臼町の観光船のように、海洋生物や野鳥などの資源魅力が注目され、またマーケティングの成果で観光客が増加している観光施設もある。こうした利用増加中の資源への影響や利用形態をモニタリングする必要性がある。

次に、利用形態の変化に関しては……………。

(以下作成中)

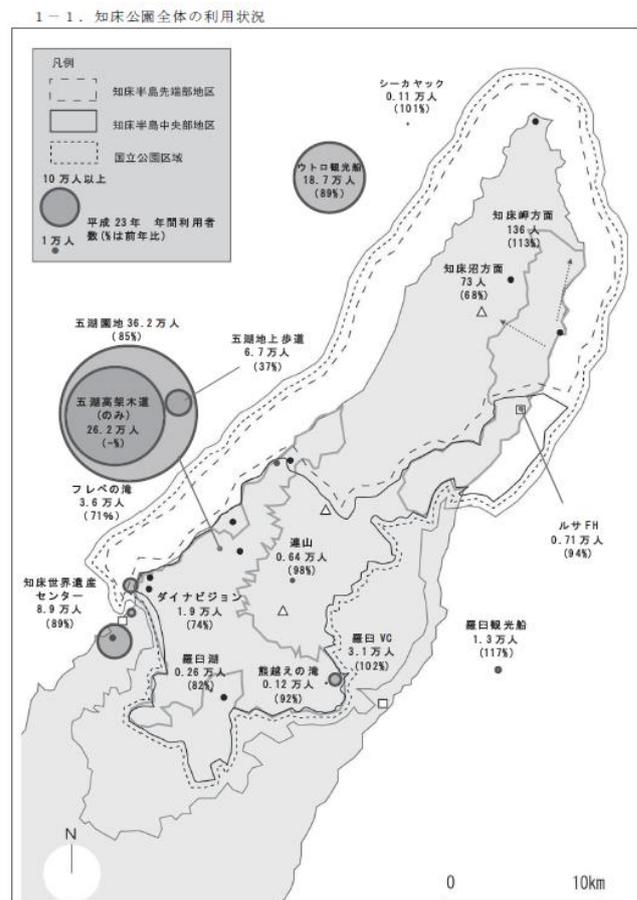


図1-1 知床公園全体の利用状況

¹昨年まで高架木道利用者数と地上部歩道利用者数を重複してカウントしているのが今年の高架木道だけの利用者とは単純に比較はできないが、2010年と比較して今年の高架木道利用者はわずかに増加している。